

D&Iの実現とその先に向けた学びを

— 筑波大学インクルーシブ・リーダーズ・カレッジの取り組み

筑波大学人間系障害科学域兼
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター助教

河野 禎之
かわの よしゆき



「学び」の課題

東京2020オリンピック・パラリンピック大会でも「Unity in Diversity」が掲げられたように、ダイバーシティ&インクルージョン(以下、D&I)という言葉が日本でも広く知られるようになって久しい。しかし、これも東京2020大会であらわになったように、日本のD&Iの状況は課題が山積し、依然として世界の標準から大きく遅れている。ジェンダーギャップ指数は低調な推移のままであり、障害者雇用の裾野の広がりも十分ではない。少子高齢化や情報化を背景に急進する国際化に伴う多文化共生の議論も始まったばかりであり、社会保障費等に代表される世間格差も生活の様々な場面に影を落としている。さらに、新型コロナウイルス感染症の負の影響はより弱い立場の人々へとしわ寄せされ、D&Iの課題はより顕在化されることになった。では、あらためてここで考えてみ

たい。そもそも、私達はこれらD&Iを巡る課題について、その本質をどれだけ学ぶ機会があったのだろうか。

もちろん、現在では様々な書籍や研修により学びを得る機会自体が増えていることは間違いない。しかし、D&Iとひと言で言っても、その内容は上述したように実に多岐にわたる。そして、日本の多くの企業や組織では、特定のテーマ(例…女性活躍、障害者雇用)を「縦割り」に扱っている構造が少なからず共通している。そもそもD&Iとは何を意味するのか、その実現に向けて何が求められるのかといった、縦割りで扱われるテーマの根底にある本質や構造を多角的に捉えるような視点を「学ぶ」機会が圧倒的に少ないのが日本の状況なのである。

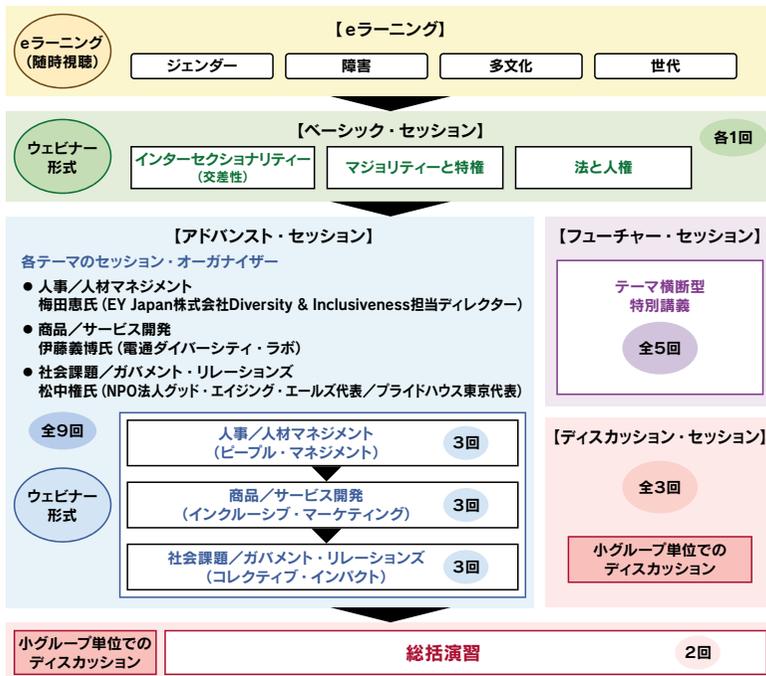
目指す未来

筑波大学では、これらD&Iを巡る「学び」の課題の解決を目指し、日本で初めてD&I

に特化した社会人向けの教育プログラムである「筑波大学インクルーシブ・リーダーズ・カレッジ」(以下、筑波大学ILC)を2018年に開講した(ILCの名称は2019年度から)。筑波大学ILCが目指すビジョンは、「ダイバーシティ/インクルージョン/トランス・クリエーション」(多様/共生/共創)という3つのキーワードで表現される。「ダイバーシティ」とは、端的に言えば、多様な特性や属性を有した人々が存在するという現実世界を正確に認識することである。そのためには、アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)を乗り越えるための科学的/多角的な視点が必要となる。そして「インクルージョン」とは、それら多様な人々をどのように包摂し、共に生きる(共生)ことのできる社会(或いは組織)を実現できるかということである。そのためには、多様な人々の中に関係性を構築し、多様な価値を最大化するための様々な方法論が必要となる。では、最後の

企業におけるジェンダー・ダイバーシティ —リーダーの本気度を問う

図表 筑波大学インクルーシブ・リーダーズ・カレッジの構成
(2021年度の例)



実現のためのプログラム

「トランス・クリエイション」とは何か。それは、D&Iを実現したその先の未来として、多様な人々が既存の価値から新しい価値への転換を共に創り出す(共創)姿を描いている。筑波大学ILCでは、このようなD&Iの本質的な価値をしっかりと捉え、インクルージョンの実現に向けたリーダーシップを発揮するとともに、多様性を価値に転換することで共創型の組織やイノベーションを創造することができる人材の輩出を目指しているのである。

上述したビジョンに基づき、筑波大学ILCはD&Iの基礎から実践までを、筑波大学をはじめとした大学研究者や、企業・団体でD&Iの最前線に立つリーダーとともに体系的に学ぶことができるよう開発されている。具体的には、D&Iについて「ジェンダー」「障害」「多文化」「世代」の4つの基礎的な視点から知識を身に付けるとともに、それらを「人事/人材マネジメント」「商品/サービス開発」「社会課題/ガバメント・リレーションズ」という3つの横断的かつ実践的なテーマからさらに学びを深めるよう構成されている(図表)。

4つの基礎的な視点については、「eラーニング」によりその領域の最低限の知識を自由に学びながら、そのうえで「ベーシック・セッション」として、D&Iの本質を理解するための3つの視点「インターセクショナルリティー(交差性)」「マジョリティーと特権」「法と人権」を学ぶことで構造的な理解を得ることを目指している。

3つの横断的かつ実践的

なテーマについては、上記の土台を踏まえた「アドバンスト・セッション」として、それぞれのテーマにおいて先進的な実践を牽引してきたオーガナイザーのもと、様々なD&Iの現場で活躍するゲスト講師を招き、受講生と講師との相互交流を重視した学び合いにより、より実践的で具体的な理解を得ることを目指している。

さらに、筑波大学ILCでは、デザイン、スポーツ、テクノロジー等の多様な切り口からD&Iの実現した未来を描くテーマ横断型の特別講義である「フューチャー・セッション」、受講生同士がプログラムを通じて得た学びや気付きを共有する「ディスカッション・セッション」、プログラムの総括として最終的な学びをアウトプットする「総括演習」といった、多彩なセッションを設定している。加えて、修了生を中心としたネットワークも組織化し、これら一連の取り組みを通じて、一人ひとりの受講生が主体性と自律性を持った人材として組織や社会で活躍することをエンパワーメント(支援)している。

「人」は本来、本質的に「多様」な存在である。今後、社会はますます多様化し、不確実性が増していくことは明らかである。そのような世界の中で、筑波大学ILCが目指すような、新しい価値を様々な人々とともに創り出していくことのできる新しい時代のリーダー人材の育成が、これからの日本に強く求められるだろう。

(注)筑波大学インクルーシブ・リーダーズ・カレッジ
<http://extension.sec.tsukuba.ac.jp/archives/lecture-list/2071>